

表2 INCIDENCE OF HOME CARE
(WFH,1980)

	Number of Hemophiliacs	On Home Care	%
AUSTRIA	365	41	11
AUSTRALIA	10	5	50
BELGIUM	25	10	40
BRAZIL	244	35	14
CANADA	604	228	38
COSTA RICA	90	24	27
FINLAND	183	45	25
FRANCE	1,344	334	25
WEST GERMANY	1,256	768	61
GREECE	310	24	8
ISRAEL	154	41	27
ITALY	752	297	39
NEW ZEALAND	85	37	12
NORWAY	300	37	12
SOUTH AFRICA	61	16	26
SPAIN	648	62	10
SWEDEN	810	135	17
SWITZERLAND	261	141	54
U. K.	3,475	683	20
U. S. A.	6,212	1,701	27
TOTAL	17,189	4,637	27

活性化 P P S B 製剤中の Active Principle の検討

帝京大学医学部 第一内科 安部 英
風間 睦美
木下 忠俊
田原千枝子

目 的

同種抗体（インヒビター）の発現した血友病A患者の治療剤として第Ⅷ因子迂回活性化製剤が開発されているが、その有効成分の本質、凝固機転上の役割は未だ明らかではない。本研究ではかかる製剤につき上記の問題を2、3検討した。

材 料

1. 第Ⅷ因子迂回活性製剤（以下製剤）：FEIBA（Immuno, Austria）および Autoplex（H-yland, U. S. A.）
2. 凝固因子同種抗体：F. V, F. ⅧあるいはF. IXインヒビターを発現した臨床例より得た血漿。
3. 凝固因子異種抗体：F. I, F. II, F. Ⅶ, F. ⅧあるいはF. IXに対するウサギ抗血清より α -グロブリン分割を分離した。この分割にはAT-Ⅲは極めて少ない。

成 績

1. 両製剤に対するAT-Ⅲの失活効果：Autoplexにはヘパリンが加えてあるが、両製剤とAT-Ⅲ分割、ヘパリンを混和すると何れもThrombin Generationは完全に抑制された。
2. 両製剤に対する同種抗体の失活効果：両製剤はF. Ⅷインヒビター血漿に対しては明らかに、F. IXインヒビター血漿に対しては或程度の凝固能補正効果を示した。F. Vインヒビター血漿に対しても両者或程度の補正効果を示したが、他のインヒビター血漿と異なりこの血漿中ではFEIBAは経時的に失活した（図1）。
3. 両製剤に対する異種抗体の失活効果：各凝固因子抗体と製剤を各々混和し、37°C30分後製剤の残存活性を測定して各々の抗体の失活効果をみると、Autoplexに対してはF. IX抗体のみが失活効果を示し、FEIBAに対しては何れも失活効果を示さなかった（表1）。

結 論

両製剤のF. Ⅷ迂回活性はAT-Ⅲで抑制されるもので、FEIBAのそれはF. Vに関連し、AutoplexのそれはF. IXが関与していると考えられた。

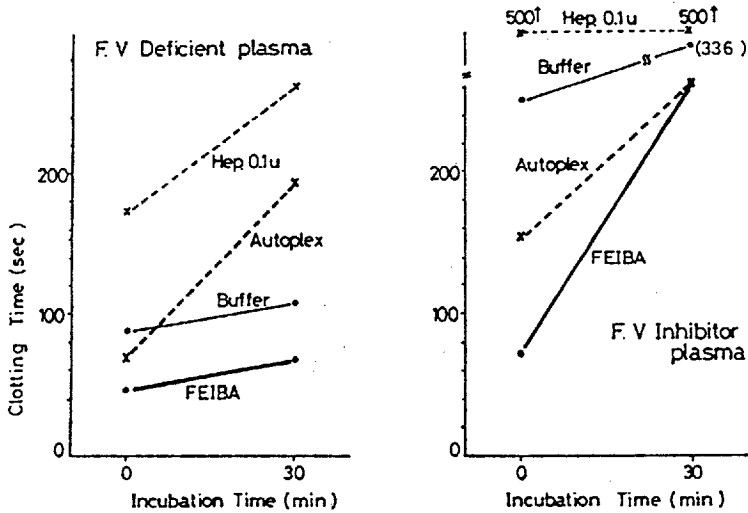
表1

Effect of Antibodies of Various Coagulation Factors on Correcting Activity of FEIBA or Autoplex

	anti-Fbg	anti-F.II	anti-F.VII	anti-F.VIII	anti-F.IX
FEIBA	-	-	-	-	-
Autoplex	-	-	-	-	+

図 1

Inactivation of Correcting Activities of FEIBA and Autoplex during Incubation with F.V Deficient Plasma or F.V Inhibitor Plasma



血友病の家庭注射療法の成績 (続)
血友病包括医療の運営の試み

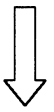
聖マリアンナ医科大学小児科 山田 兼雄

われわれは血友病の家庭注射を厚生省の研究班の方針にもとづきすでに5年以上の研究的経験を続けてきた。その例数は47例に及びわれわれが管理している血友病患者総数の180例の25%以上となる。これまでに特記すべき事故は全くみられず、血友病患者ならびにその家族のこの治療法に対する満足は筆舌につくし難い。今回はとくに本治療法における注射手技者ならびにその変遷および予防投与の実態について調査した。さらに家庭注射を基礎とした血友病の包括医療の運営の試みについての研究をおこなった。

成績1) 手技者の調査: 45例中母親が27例で幼稚園児, 学童の場合が24例, 中学, 高校生が3例であった。大学生その他の成人においては両親が施行しているものは1例もなかった。父親は1例の



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

同種抗体(インヒビター)の発現した血友病 A 患者の治療剤として第 Ⅲ 因子迂回活性製剤が開発されているが,その有効成分の本質,凝固機転上の役割は未だ明らかではない。本研究ではかかる製剤につき上記の問題を 2,3 検討した。